

- 日 2018.5.21(土)
- 時間 17:30-19:30
- 会場 大阪大学中之島センター501
- 参加者 中高一貫校(私学)図書館司書教諭 小学校(国立)
金澤 中川 榊形 森本(運営メンバー) 敬称略
- 記録 辻村(※:記録者)

キーワード

探究 支持的風土 ケア的思考 まなび合い ルーブリック

0. 初参加の図書館司書の方から自己紹介を兼ねて教育実践紹介

図書館を中心に6年一貫で自らがテーマを設定しての主体的な学習システムを行っている。

担任や全教科を巻き込んだの取り組みになっていない点は、p4c実践で学校内において孤立感を味わっている我々と共有できる問題点。

「問い」をたてるツールとしてのp4cの活用。

1. ML上に事前に発信されていた森本先生の「国語」研究授業でのp4c活用可能性について

○状況

色んな条件から自分が研究授業をする可能性が高い。

教科は「国語」だが、p4cでやってみたいと思った。

(しかし)

「国語」の研究授業でp4cでの授業は、現状では難しい。

○参加者からの意見

国語の授業実践におけるp4c活用可能性について

・「支持的風土のある学級」

た文科省の指導に即した教室(空間)の醸成という点でp4cの「知的に安全な場所」を援用。対話によって児童の「意見」を導き出す国語授業。

・ケア的思考を前提とした取り組み

ビューランダ小学校(オーストラリア)・コミュニティボール(ハワイ)→学習指導要領「国語」中学年 内容2「聞くこと 話すこと」¹(※脚注参照)に即した授業であるとすれば、大丈夫ではないか?(金澤)

¹ 2 内容

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。

イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。

ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。

エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。

オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。

イ 学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。

ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。

- ・国語の授業における継続的な取り組みの中での「本時」（＝研究授業）という考え方（見せ方？）

研究授業は10月だから、それまでの取り組みを「記録」しておく。各単元で児童の対話によって「意見」を述べあうことが有効と考えられる授業（あるいは、指導書の「発問」のところで）をP4Cでおこないそれを記録しておく。

研究会の授業で**児童たちが主体的に意見を述べ、「支持的風土」が発現する**授業が実践されれば、必ず研究授業の参観者の理解が深まる。**事後の反省会（講評会）において、その点が話題に上った時に、過去の授業記録（p4cを援用した時元のもの）を提示して、それを示す。**

（梶形 中川）

- ・日常的な取り組みが自ずと反映される

朝の会 終わりの会でp4cを活用している。休憩中に「対話」になると児童たちはコミュニティボールを使う。このように日常的な取り組みが研究授業においても反映されるのではないか？

（国立小学校）

2. p4cをいかに広げるか？

児童（見せた）保護者（参観日）管理職（近々）他の先生（…）→学校内で共有するのは非常に困難である。
（森本）

西川純「まなび合い」の広がり方には違和感を覚える。

実践を通して、成果の可視化

－音読発表会→よく話すが、書く力がない。→p4cの前と後で変化が明確になる。

「書かせたもの」のチェックは、学期に2回程度でよい。

（梶形）

3. その他

ルーブリックの叩き台をつくっています。

以上